京都・平安京右京五条一坊六町

1　所在地　京都市中京区壬生松原町

2　調査期間　一九八六年(昭61)三月

3　発掘機関　㈶京都市埋蔵文化財研究所

4　調査担当者　家崎孝治

5　遺跡の種類　都城跡

6　遺跡の年代　平安時代

7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査は住宅兼工場の建築に伴う立会調査である。調査の結果、南東方向にゆるやかな傾斜をもつ池沼状の土層を確認した。断片的な土層観察による調査のため、遺構の切合い関係等については不明な点が多いが、現地表下〇・九mから下層は褐灰色泥土層を主体としており、木片が混入しているのが観察できた。深さは〇・七mを測り、底部には直径五cm程度の礫が敷きつめられていた。

（京都西南部）

調査地は五条一坊三町（前頁参照）と隣接する条坊町割であるが、周辺の既調査分を検討すると、三町の湿地状堆積とは別の遺構であると思われる。木簡はこの池状の落ち込みから出土しており、土師器・須恵器・緑釉陶器・木製品（分銅型木製品・斎串・折敷底板）と共に出土する。共伴遺物よりみて、九世紀代のものと思われる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　□□□」　(9.2)×12×2　059

木簡の下端部は三角形に切ってとがらせている。片面に数字分あるのが認められるが、文字の判読は困難である。

9　関係文献

京都市文化観光局・㈶京都市埋蔵文化財研究所『京都市内遺跡試掘立会調査概報』（一九八六年）

（久世康博）